

Ⅲ. 中学部・高等学部の学生生活

自由な校風と外国人が教鞭をとる学校として特徴のあった西南学院は、スポーツや学芸に優れたキリスト教色豊かな学校であった。中学部や高等学部のいきいきとした学生生活の様子に対して戦争の影が徐々に色濃くなっていく。



校章・徽章の変遷
戦時中、金属類が貴重だったため、代用として作られた陶器の校章



中学部の校旗
1942(昭和17)年11月3日から使用された新校章による中学部の校旗



戦時中の英語の教科書
1941(昭和16)年頃
高等学部英文科卒業の吉田一之氏の英語の教科書



大時計
1921(大正10)年頃
2003(平成15)年まで高等学校で使用されていた大時計



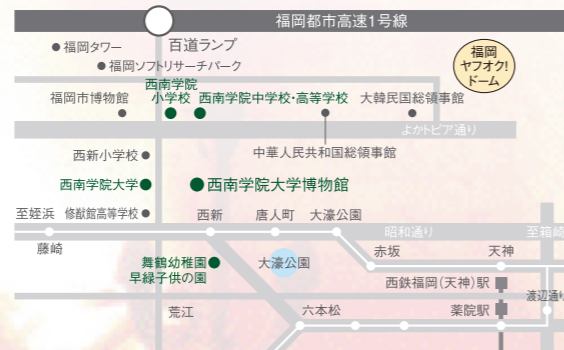
西南保母学院の衝立
1941(昭和16)年6月
西南保母学院の校舎献堂式に記念の用度備品としてしつらえられた衝立



児童教育科で行われる「つるべ渡し」
1946(昭和21)年3月
西南保母学院を前身とする福岡保育専攻学校の卒業式で受け継がれた「つるべ」

アクセス

- 地下鉄**
福岡空港 → 西新駅下車 → 約17分
博多駅 → 西新駅下車 → 約12分
天神 → 西新駅下車 → 約8分
※地下鉄西新駅(③番出口)から徒歩5分
- バス**
博多駅バスセンター → 修猷館前 → 約35分
天神 → 修猷館前 → 約20分
※修猷館前バス停から徒歩5分
- タクシー**
福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約25分
博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約20分
天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約15分



西南学院100周年事業推進室
TEL.092-823-3920
〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92
mail:sw100th@seinan-gu.ac.jp



1916

創立当時の在校生と教職員(現・福岡市中央区赤坂)



1921

完成直後の西南学院本館(現・大学博物館)



1938

百道の浜で記念写真を撮る中学部の生徒たち



1944

旧本館に設置されていた奉安所



西南学院創立100周年記念学院史企画展

日本に蒔かれた一粒の麦

— 西南学院の100年 —

2014年
2月28日(金)～5月16日(金)

会場/西南学院大学博物館
〒814-8511 福岡市早良区西新3-13-1

開館時間/10:00-18:00 入館は17:30まで **入場無料**

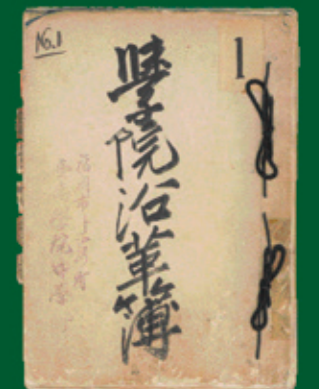
休館日/日曜日 主催/西南学院百年史編纂委員会



〈西南学院創立者〉
C.K. ドージャー
(1879-1933)



— 陶器の校章 —



— 学院沿革簿 —



西南学院

日本に蒔かれた一粒の麦

— 西南学院の100年 —

19世紀の終わり頃、アメリカ南部バプテスト派の宣教師がはるばる海を渡ってキリスト教を伝えに来た。その宣教師たちが日本にキリスト教が浸透していない時代にイエス・キリストの教えを広めようとして多くの苦勞を重ね、男子の中学校をつくった。これが「私立西南学院」の発祥である。

西南学院創立の中心となった宣教師チャールズ・ケルシー・ドージャー (Charles Kelsey Dozier) は、西南学院の院長として日本の文化風土になじもうとしながらも、自身のキリストへの信仰に忠実に生きようとしたためにその狭間で苦惱し、ついに院長を辞任することになる。

日本に蒔かれた一粒の麦として生まれた西南学院が、このような出来事をはじめ、紆余曲折がありながらも歴史を経て幼稚園・保育所から大学院を持つ総合学園に成長し、今、100年を迎えようとしている。

この企画展では貴重な歴史資料や展示品などを基に西南学院史の一端を紹介する。

西南学院百年史編纂委員会



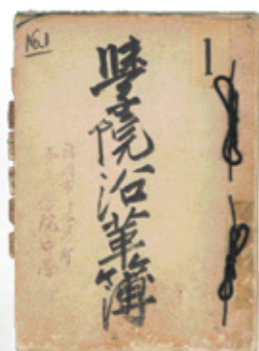
1916(大正5)年西南学院発祥の地
(現在の福岡市中央区赤坂1丁目付近:手彩色)

I. 西南学院の誕生

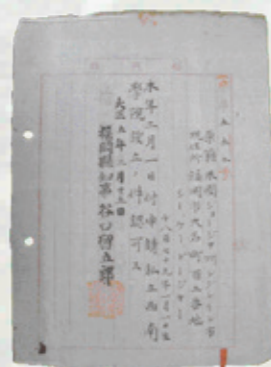
C.K.ドージャーは、キリスト教を伝えるため日本に派遣されたアメリカ南部バプテスト派宣教師であった。しかし、当時の日本にはキリスト教が根づいていなかったため、キリスト教主義の学校を作り、イエス・キリストの教えを伝えることにした。外国人が日本で学校を創立し、運営するということは、並大抵のことではなく、ドージャーの苦勞が始まった。



C.K.ドージャーの胸像
1980(昭和55)年3月
西南学院高等学校第32回卒業記念事業として制作された胸像



学院沿革簿
1921(大正10)年頃
創立当初からの学院の歴史が綴られた貴重な文書



西南学院設立認可書
1916(大正5)2月(複製)
福岡県知事より交付を受けた私立西南学院設立認可書

西南学院旧本館・講堂の「建築仕様書」
1920(大正9)年5月

中学部の第1回の卒業式に合わせて、旧本館・講堂が建設された時の「建築仕様書」

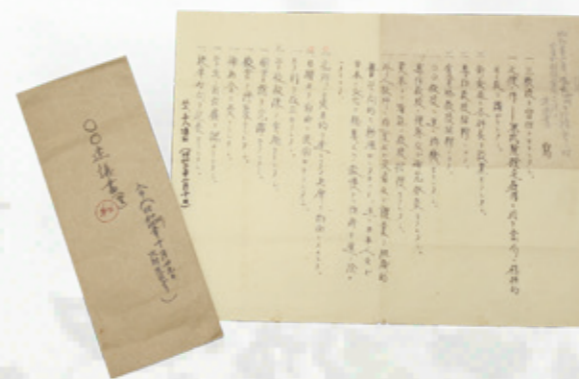


II. 日曜日問題とドージャー院長の辞任

生みの苦しみを味わった西南学院もその後は順調に発展し、中学部の卒業生を受け入れる学校として1921(大正10)年に西南学院高等学部が開設された。高等学部は、野球やラグビーなどのスポーツも優れていたため日曜日に試合をすることが多く、キリスト教の「聖日」を守るよう指導していたドージャー院長とぶつかり、1927(昭和2)年に院長排斥事件が起こった。いわゆる「日曜日問題」である。



建学の精神の扁額
創立者C.K.ドージャーが永眠した1933(昭和8)年頃に制作された扁額



「日曜日問題」を背景とした「建議書」(写し)
1928(昭和3)年2月

ドージャー院長の退陣などを決議し、ストライキが起こった。このとき作られたのが18項目からなる「建議書」



ドージャーの悲報を伝える中学部「校友會報」
1933(昭和8)年7月25日付

ドージャーが永眠した直後に中学部の校友會が発行した会報